

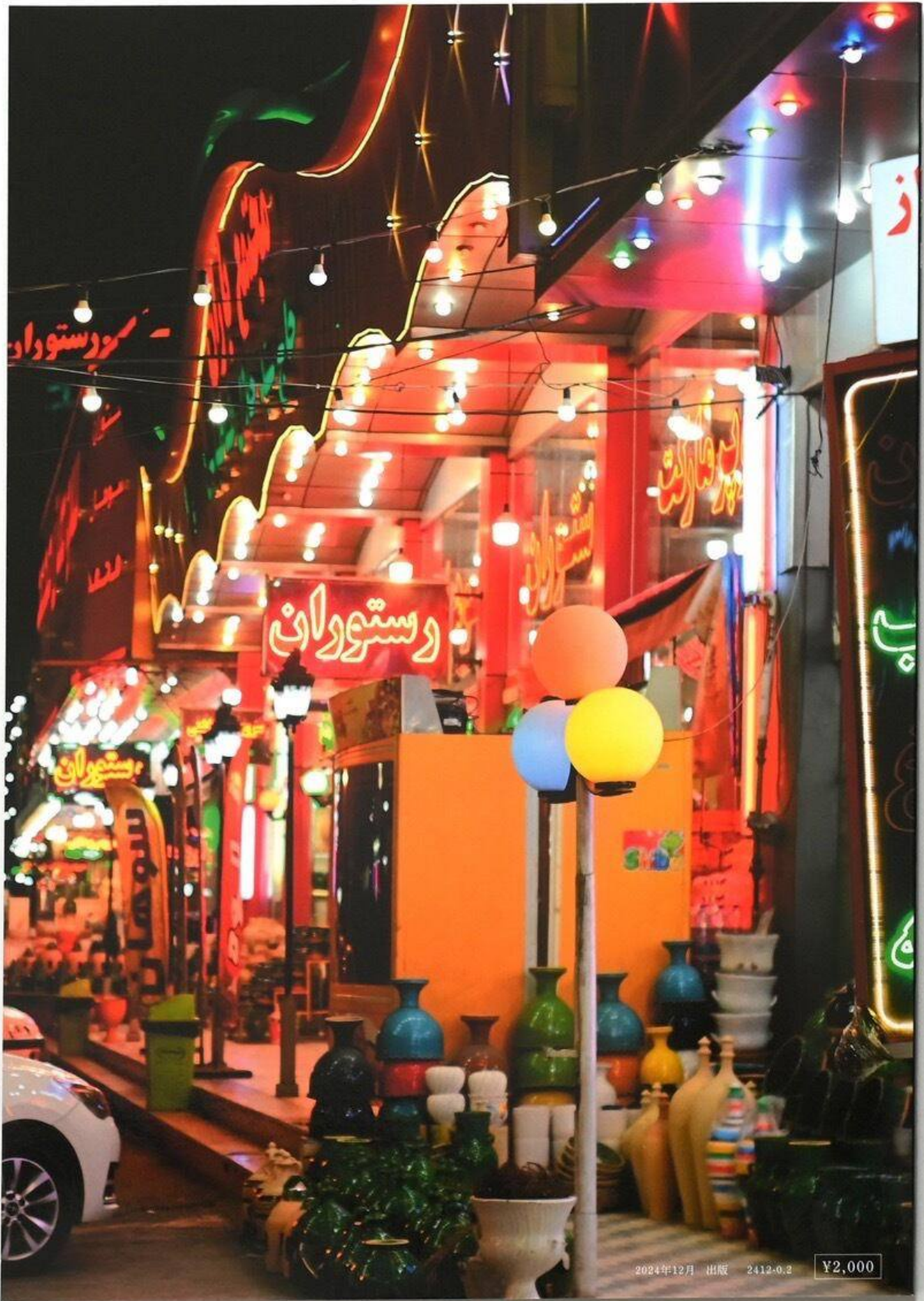


سایه‌کشان

陽 風 木 陰

ニュースにならないイランの風景

森千容 | シャフバーズィー ヤセル

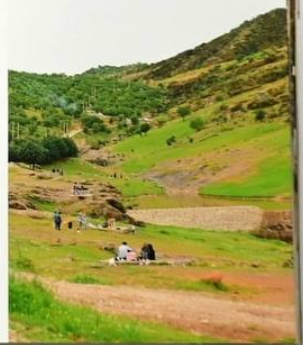


2024年12月 出版 2412-0.2

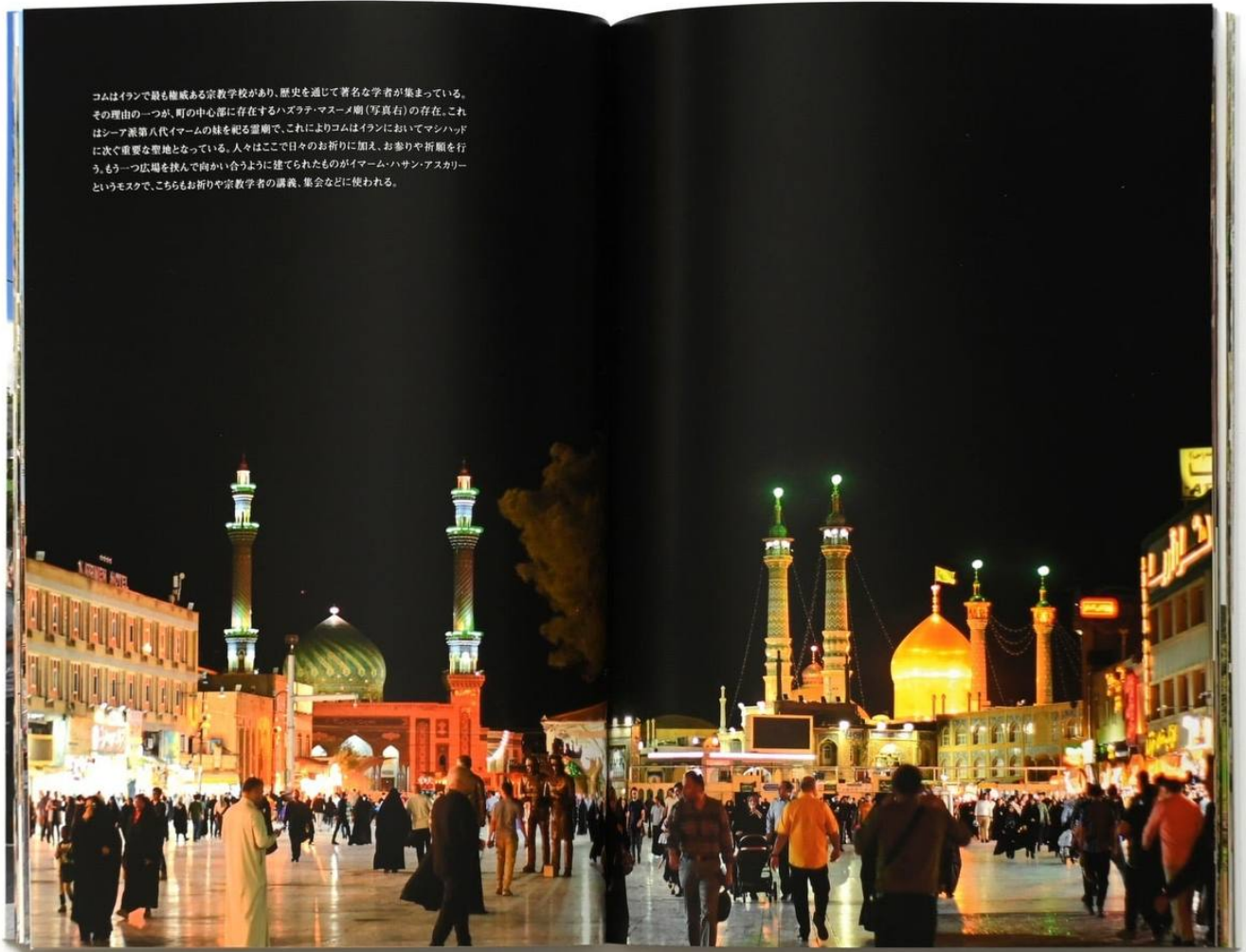
¥2,000



市街地から車で15分ほどで標高2900mほどの山々が見えてくる。「マフマル・クー」（ベルベツ山）と呼ばれるこの一帯は、雨季が始まると岩壁に苔が育ち、山全体がベルベツに覆われたような風景になる。

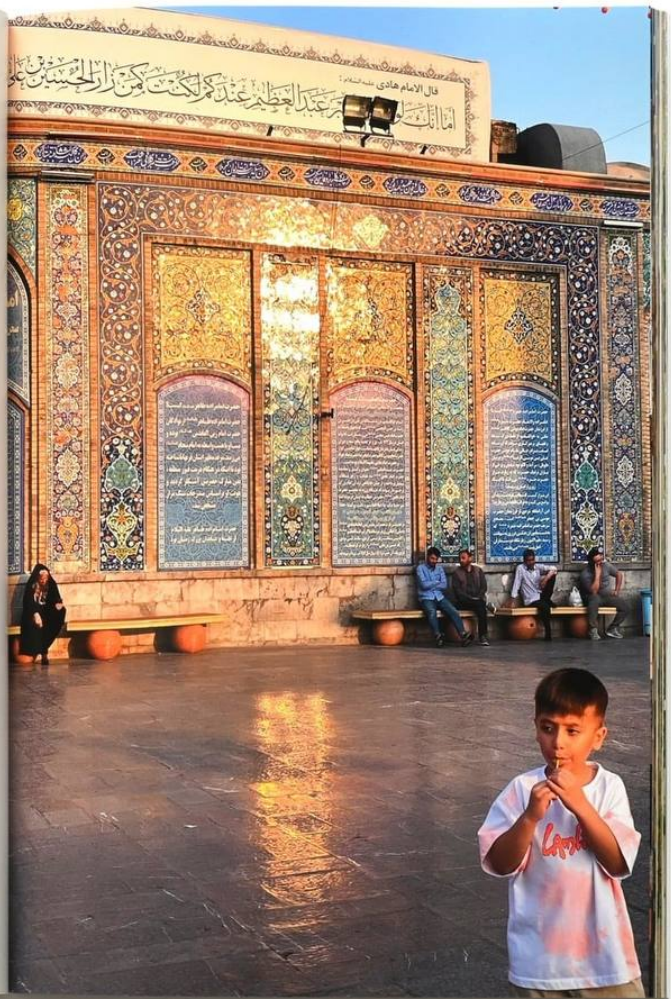


コムはイランで最も権威ある宗教学校があり、歴史を通じて著名な学者が集まっている。その理由の一つが、町の中心部に存在するハズラテ・マスメ廟（写真右）の存在。これはシーア派第八代イマームの妹を祀る霊廟で、これによりコムはイランにおいてマシハッドに次ぐ重要な聖地となっている。人々はここで日々のお祈りに加え、お参りや祈願を行う。もう一つ広場を挟んで向かい合うように建てられたものがイマーム・ハサン・アスカリーというモスクで、こちらもお祈りや宗教学者の講義、集会などに使われる。



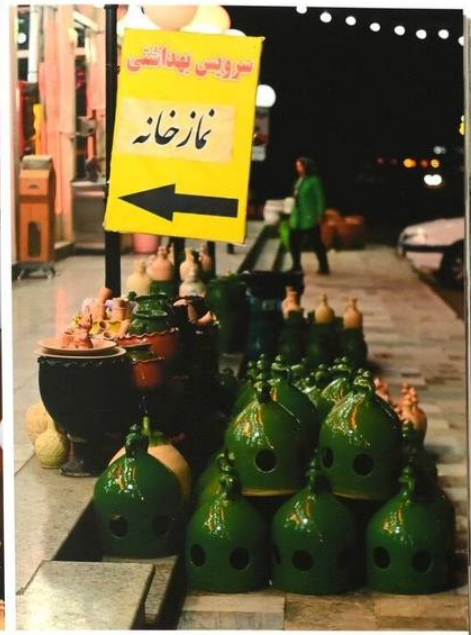
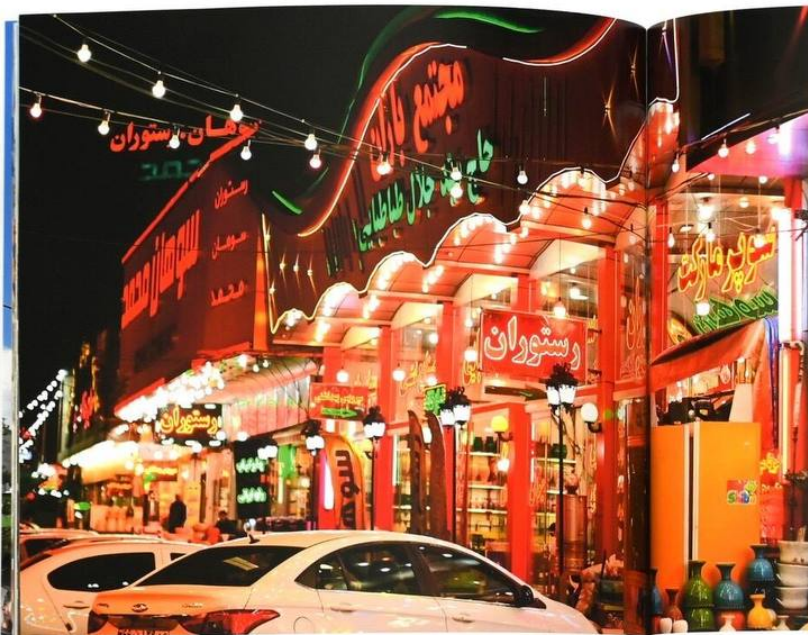


お祈りの際に使われるモフルという石。
これを床に置き、ひざまずいて額をのせる。
シーア派特有の様式。





2010年、この民家を改装したホテル。
この民家は、パタゴニア家同様、大きな中庭がある伝統的な造り。
中庭からの光が漏れる、心地よい空間。



カラフルなネオンで彩られたお店は「フーハン」というクッキー屋さん。イラン全土で食べられるが、特にコムの名物として知られている。カルダモンやローズウォーター、サフランなどを使った素朴な味の焼き菓子。コム周辺の道路にはカラフルな店構えのフーハン店が立ち並び、サベスリアのような景目を思っている。店の外には給湯器が設置され、持参したポットに熱湯を注ぎ、道中も温かいお茶が飲めるようにされている。イラン人は紅茶を1日に何度も飲むが、ドライブ中も家で作ったお茶をポットに入れて持ち運び、ガラスコップに移して飲む。

